

国語科

他者の言葉とのかかわり合いをとおして、言葉の世界をひらく

—第4学年 文学的文章の実践をとおして—

杉川 千草

1. はじめに

文学的文章は、ある状況における人間の生き方を言葉によって表現したものである。したがって、読み手は、言葉によって創り出された実際には存在しない世界を、作品の言葉をもとに想像しながら読んでいかなければならない。つまり、「読む」という行為は、読み手が作品の中の言葉をもとに、自分なりの作品世界を創り出していく一つの創造活動である。そして、文学教育は「ひとりひとりのリテラシー（ことばの力）」を育てていくために営まれるもの¹⁾であり、「読む力は、読むという経験を通じてはじめて大きく伸びるもの」²⁾である。

学習指導要領の改訂に伴って、新教科書では、「文章や作品の『構成・構造』への着目、文章や作品の『工夫』への着目、『図表や写真』の重視、『評価・批評』の重視などに特徴的な変化」³⁾が見られる。

そこで、子どもたちが創造的に読むことによって、読むこと本来の楽しさや作品のおもしろさを十分に味わいながら、さまざまな観点から言葉の力を育てることのできる文学的文章の授業づくりに取り組みたいと考えた。

2. 研究の構想

(1) 他者の言葉とのかかわり合いをとおして、言葉の世界をひらく

日々の国語科の授業において、子どもたちは、他の学習者や教師などのほか、テキストの筆者や過去の自分など、さまざまな他者と出会っている。

子どもたちは、さまざまな他者の言葉とのかかわり合いをとおして、自分の言葉を見つめ直し、新たな言葉を獲得していく。また、学習の深まりを確かめたり、他者とともに学習することのよさを実感したりする。そして、このような営みを繰り返すことによって、語彙を増やし、表現力を豊かにするとともに、新たな認識を広げ「言葉の世界をひらく」ことができると考える。

(2) 言葉の世界をひらくために

言葉の世界をひらくために、友だちの読みを他者の言葉として設定し、次のことに留意した単元（授業）構成を行う。

①読みの課題意識をもたせる

子どもたちは、社会や学習の中で、さまざまな他者の言葉に出会う。子どもたちが言葉の世界をひらくためには、言葉への興味・関心を引き出し、課題意識をもつことが大切である。

そこで、題名読みや物語の後半部分の予想を本文と比較させることによって、一人ひとりの率直な感想を引き出し、読みの課題意識をもたせるようにする。また、作者の存在に目を向けさせることによって、文章の構成や展開に着目させ、題名や登場人物の人物像、繰り返し使われる言葉など、物語を楽しませるための表現の工夫も意識させるようにする。

②個の考えをもたせ、他者と交流させる

読みは一人ひとりそれぞれ異なり、最終的には自分に返るものである。

そこで、一つひとつの言葉から感じたことや率直な疑問などを書き込むことによって、自分の考えをもたせるようにする。そして、一つの課題に向かって、自分たちの考えをお互いにかかわらせ

ながら学習を深めていくことができるような授業づくりをしていく。授業の終わりには、他者の言葉から学んだことを確かめさせるようにする。このような学習を繰り返し行うことによって、他者とともに学ぶことのよさを実感させ、子どもたちの主体的な学びを生み出し、学ぶ意欲を継続させるようにする。

③自らの読みを創造的に表現させる

表現することは、自分の考えを他者に伝えるとともに、自分自身に問い直して自己の考えを確かなものにし、学習を深めることにもつながるものである。

そこで、物語の主題を自分なりの新たな題名として表現することによって、物語の展開のおもしろさを見つけたり、物語の意味を再認識したりさせるようにする。また、単元の終わりには、学習したことを再構築して創造的に表現させることによって、作品のおもしろさや楽しさを共有させるようにする。

3. 実践「人物の心情を想像しよう『世界でいちばんやかましい音』ベンジャミン＝エルキン作 松岡享子訳（学校図書四下）」

(1) 授業の構想

①単元について

ガヤガヤの都に住むギャオギャオ王子は、誕生日のお祝いに「世界でいちばんやかましい音」を聞くはずだったのに、人々の率直な願いが世界中に広まったおかげで、生まれて初めて自然の音に耳を傾け、静けさと落ち着きのすばらしさに気付かされる。物語は起承転結で構成され、題名や登場人物の設定、繰り返し使われる言葉などがテンポのよい展開につながり、読者を引き付け最後まで一気に読ませる。さらに、題名とは正反対の結末は、読者に物語の意味について改めて考えさせるものになっている。ここでは、一人ひとりの素直な感想や考えを友だちと交流することによって、物語のいろいろな読み方にふれ、物語のおもしろさを自分なりに再発見させるようにした。

②目標

- 物語の展開のおもしろさに関心をもって読むことができるようにする。
- 読み取った内容や人物への感想など、友だちとの共通点や相違点を整理しながら話し合うことができるようにする。
- 叙述に即して、登場人物の心情の変化などを想像しながら読むことができるようにする。

③学習計画（全8時間）

第1次 物語の続きを予想しよう・・・2時間

第2次 「世界でいちばんやかましい音」を
読もう・・・3時間

第3次 物語の新たな題名を考えよう・・・3時間

(2) 授業の実際（Y児の記録を中心に）

〈第1次 物語の続きを予想しよう〉

①第1時

まず、「音」からイメージを広げさせ、「世界でいちばんやかましい音」はどんな音だと思うか考えさせた。

大きなものが動く音だから、飛行機のエンジン音。

(Y児)

その後、絵本⁴⁾で、「その時こくが来たら、みんなありったけの声で、『ギャオギャオ王子、おたん生日おめでとう!』と、さけぶことになっていました。」までを読み聞かせ、続きがどんな展開になると思うか想像して書かせた。すると、誕生日のお祝いが「成功する」「成功するけれど…」「成功しない」という三つの展開に分かれた。

「成功する」

当日、町のみんが広場に集まって、

「ギャオギャオ王子、おたん生日おめでとう!」

その声は、ギャオギャオ王子までとどきました。王子は、

(ぼくのために、ぼく一人のためにみんながさげんでくれた。そうだ……。)

「ありがとう!」

この言葉は、世界中の人々に聞こえました。世界中の人々は、

「どういたしまして!」

この言葉は、細工をしたわけではありません。世界中の人々の声がそろったのです。いつまでも、「ありがとう。」
「どういたしまして。」
という声がひびいていました。(A児)

「成功するけれど……」
そして、その日の〇時〇分〇秒が来ました。みんなは、せーのっで、「ギャオギャオ王子、おたん生日おめでとう！」と言いました。とてもうるさい音だったので、ギャオギャオ王子も気に入らなうとみんなは思っていました。そのとおりに当たっていました。ギャオギャオ王子は、「気に入った。とても大きな音だった。この世界の中でいちばん大きな音だった。」と言っていました。それを聞いたみんなは、「やったー、やったー。」と喜んでいました。これで終わりだ！とみんなは思っていました。実はちがいました。ギャオギャオ王子は満足しても、そのお父さんが満足していなかったのです。だから、また付き合わされるみんなでした。(Y児)

「成功しない」
その当日……世界中の人が全て集まるので、さすがに世界中でかぜをひかない人がいるわけがないので、百人以上の人が休んでしまい、その計画は次の日に送られました。また、次の日もまたまた次の日も百人以上が休んだので、もうギャオギャオ王子は不満そうに王様に、
「どうしてまだ実行されないの。」
すると、王様は、
「わしも早くやりたいのだよ。でももう、参加者が完全にそろわないのだよ。」
ずっとそろわずに、そのままギャオギャオ王子のおたん生日はすぎてしまいました。(N児)

②第2時

はじめに、前時に考えた各自の続き話を交流させた。子どもたちは、自分の考えた展開との違いに驚いたり、物語の落ちに思わず笑い声をあげたりしていた。その後、教科書で全文を通読し、自

分が考えた続き話と比べながら感想を書かせた。

自分の書いた話と全然ちがいました。でも、王子様が新しい発見ができたのでよかったですと思います。それに、私が考えた話よりずっといいと思いました。心に残ったことは、あんなにうるさくて都の名前もガヤガヤなのに静まり返れたので、そこが心に残りました。だから、もう、都の名前はガヤガヤではないと思います。私は、「シーン」みたいに静かな名前にした方がいいと思いました。だって、もううるさくないからです。アヒルが世界中でいちばん大きな声で鳴いたり、家の戸が世界中のどの戸よりも大きな音を立ててしまったり、町のおまわりさんがどこのおまわりさんよりもけたたましい音でピーッと笛を鳴らしたりすることよりも、ぎゃくによかったと思います。(Y児)

その後、みんなで学習したいことやもっと読み深めたいことなどを学習課題として挙げさせ、物語のあらすじや主人公を確認するとともに、初発の感想を交流させた。子どもたちの率直な思いとして、次のような感想が挙げられた。

- 楽しい・おもしろい
 - ・いっせいに「おたん生日おめでとう！」というはずだったのに、みんな言わなかった。
 - ・「別に悪気はなかったのですが」という言葉で、うわさが次々に広がっていった。
 - ・「世界でいちばんやかましい音」という題名なのに、実際は「世界でいちばんやかましい音」が出てこない。
- びっくり・すごい
 - ・一人のおくさんの思い付きが、世界じゅうに広がった。
 - ・世界でいちばんやかましい音が聞けなかったのに、王子様が喜んだ。
 - ・ガヤガヤが世界でいちばんやかましい町だったのに、いちばん静かな町になった。
- 不思議・疑問
 - ・ガヤガヤはなぜ世界でいちばんやかましい町になったのか。
 - ・なぜうわさが世界じゅうに広がったのか。
 - ・王子様はなぜ静けさと落ち着きが好きになったのか。

など

また、全体での学習課題を次のように決めた。

- 王子様はなぜ「世界でいちばんやかましい音が聞きたい。」と言ったのか。
- 王子様は世界でいちばんやかましい音が聞けなかった時に、どう思ったのだろう。
- 作者はなぜこういう話（結末）にしたのだろう。
- なぜ「世界でいちばんやかましい音」という題名を付けたのだろう。

〈第2次 「世界でいちばんやかましい音」を読もう〉

第2次では、第1次で決めた学習課題についてそれぞれ自分の考えをもち、それを交流した後に学んだことをまとめるという流れで授業を進めた。

その中で子どもたちは、王子様の心情を読み取るとともに、最初と最後の町の変容をとらえることができた。さらに、「世界でいちばんやかましい音」は物語の中で実現しなかったのに、なぜ「世界でいちばんやかましい音」という題名なのかということに、改めて目を向けることができた。

〈第3次 物語の新たな題名を考えよう〉

①第1時

これまでの学習をふまえて、物語の内容にふさわしい新たな題名を各自に考えさせた。

「おくさんのおかげ！」

おくさんのおかげで、王子様は静かな時をすごせたので、「おくさんのおかげ」という題名にしました。

「おくさんのおかげで王子様は静かな音を聞けた」という題名は長いので、短くして「おくさんのおかげ！」という題名にしました。 (Y児)

他の子どもたちは、次のような題名を考えた。

- ・「世界に一人だけのおくさん」
- ・「おくさんのおかげで静かになった町」
- ・「一人の人から世界が変わる」
- ・「おくさんのおかげで王子の大変身?!」
- ・「王子様のたん生日」
- ・「世界でいちばん静かな日」
- ・「クワックワックワ正反対!～たん生日ですべてが変わった～」
- ・「世界でいちばん静かな町」

- ・「ようこそ静かな町へ」
- ・「世界でいちばん変わった町」
- ・「世界でいちばんすばらしい音」
- ・「世界でいちばんやかましい音のはずが？」 など

子どもたちはもとの題名を生かしながら、物語の展開を変えるきっかけとなった人物や出来事、また、物語の結末に着目しながら、それぞれ題名を考えていた。

②第2時

前時に考えた自分なりの新たな題名とその理由を友だちと交流し、「なぜ『世界でいちばんやかましい音』という題名を付けたのだろう。」という学習課題について考え、物語の展開のおもしろさを見つれたり、物語の意味を再度とらえ直したりさせた。

ベンジャミン＝エルキンさんがなぜこんな結末にしたかは、たぶん王子様にも静かな町を知って静かな時をすごしてほしかったし、静かは楽しいということを知ってもらいたかったからだと思います。

作者は、題名のこと、みんなを引きよせているんだと思います。題名から作者さんは工夫をしているんだと思います。ガヤガヤの町の名前は、もう変えた方がいいと思います。例えば、シーンの町などです。

(Y児)

③第3時

これまでの学習を振り返るとともに、それぞれが物語の続き話や、登場人物の日記、作者の後書きなどを書いて学習のまとめとした。

「ギャオギャオ王子たん生日の王様日記」

この前、王子のたん生日だった。予想外なてん開になってしまって、わしの名前が歴史に残らなくなってしまった。その時のことを考えてみよう。そもそもなぜみんなはだまってしまったのだろう。みんながだまったから、わしは歴史に名前が残らなかったのだ。ちゃんとみんなにいつの何時何分にさけぶということ言って、みんなちゃんとさん成してくれていたのに、なぜシーンとしていたのかがわからん。それになぜ王子は世界でいちばんやかましい音を聞けなかったの

に、あそこまで喜んでいただけ？さっぱりわからん。

みんながだまったせいで、歴史に名前が残らなかったが、王子もその時、たん生日プレゼントを決める時のようなわがままを言うてくれれば、何とかなつたかもしれないのに……。

でも、そもそも王子のたん生日だったし、王子が喜んでいただけからまあいいか。よく考えたら、これはハッピーエンドなことだったんじゃないか。歴史に名前は残らなかったが、ギャオギャオ王子が自然の音を聞いたからいいや。ギャオギャオ王子、おたん生日おめでとう。(Y児)

4. 考察

言葉の世界をひらく学習について、学習の様子や事後アンケートから考察する。

(1) 読みの課題意識をもたせる

今回の単元では、物語の全文を読む前に後半部分の予想を取り入れた。事後アンケートによると、「物語の後半の予想を書くことは、学習課題を作ることに関わった。」と答えた子どもは、38名(2名欠席)中35名いた。その理由として「自分で物語を書いたからよくわかった。」「物語と自分の書いた話とのちがいがくらべられた。」「学習課題が作りやすかった。」「自分と作者の考えのちがいを探し、なぜそうなったかということ学習課題にすることができた。」「くらべてみて『なんで?』と思って、物語の深い意味までわかった。』などを挙げていた。子どもたちは予想と本文とを比較しながら、感想や読みの課題意識をもつことができたと考えられる。

物語の新たな題名をつくったことについての事後アンケートでは、「物語の新たな題名を考えることは、作者の工夫を見つけ作者の伝えたいことを考えることに役立った。」と答えた子どもは、40名中35名いた。その理由として「作者がなぜこんな題にしたのかをくわしく考えられた。」「物語の中に『世界でいちばんやかましい音』が出てこないから、作者の伝えたいことがわかった。」

「このことを伝えたくてこの題名にしたんだなと思った。」「友だちの考えをしっかりと聞いていたから、よくわかった。」などを挙げていた。子どもたちはそれまでの読みを振り返り、自分なりに物語の意味を考えることにつながった。さらに、新たな題名を交流することによって、多様な読みのおもしろさにふれることもできたようだ。

このように、物語の予想や新たな題名は、自分たちが創り出した「他者の言葉」となり、本文と比較しながら課題意識をもって物語の読みを深めることにつながった。さらに、書き手としての立場から物語全体を構造的、評価的に読ませるために有効であった。

一方、アンケートに「物語の本文や題名が自分の考えたこととちがっていた。」ことを理由として「役立たなかった。」と答えた子どももいたので、活動の意図を子どもたちに伝えたり、比べるための明確な視点をもたせたりするなど、より細かい手立てが必要であったと考えられる。

(2) 個の考えをもたせ、他者と交流させる

子どもたちは初発の感想として、「楽しい・おもしろい」「びっくり・すごい」「不思議・疑問」など、たくさんの感想を挙げていた。第2次での内容の読み取りを経て、第3次で主題や作者の工夫や意図について考えさせた結果、次のような感想が見られた。

- ・題名で「どんな話だろう?」と思わせて、いい線まで読者さんの気持ちを持って行って置いて、最後にどんでん返しという工夫がしてありました。
- ・「別に悪気はなかったのですが」という言葉を何度も使ったところがおもしろい。
- ・たった一人のおくさんのせい(おかげ)で、物語が急てん開になって世界中が動いた。
- ・作者はみんなを楽しませるためにわざと反対にしたのでおもしろい。
- ・物語のわくわくした感じが印象に残った。
- ・題名とはちがうてん開にしたらみんなときどきするのでおもしろい。

このように、題名や登場人物の人物像、繰り返し使われる言葉が、物語のテンポよい展開やどん

でん返しのおもしろさにつながる、作者の巧みなしかけにかかわる感想が多く見られ、授業をとおして読みの広がりや深まりが感じられた。

(3) 自らの読みを創造的に表現する

単元の終わりに、これまでの学習を振り返るとともに、それぞれが物語の続き話や、登場人物の日記、登場人物への手紙、作者の後書きなどを書いて学習のまとめとした。

Y児は、学習のまとめとして「王様の日記」を書いた理由として「王様はあまり目立っていなかったの、けっこうおもしろくなると思ったから。」と述べている。物語の内容を踏まえ、王様の性格を盛り込みながら、王子様の変容を喜ぶ内容となっている。

その他の子どもたちは、次のような王子様の日記や作者の後書きなどを書いた。

「ギャオギャオ王子の生まれて初めて」

今日ぼくは、世界でいちばんやかましい音を聞いたん生日のはずだったんだけど、世界中の人が一人残らず静かにしてくれて、生まれて初めて自然の音が聞けて、静けさと落ち着きを知ることができて、とてもうれしかったです。

来年のたん生日には、世界でいちばんすてきな歌声の小鳥をかってもらおうかなあ。毎日毎日きれいな自然の音を聞いたら、とても幸せだろうなあ。もし、ぼくに子どもが生まれたら、今度は世界でいちばん静かで平和な町で聞かせてあげよう。

それから、ぼくが王様になったら、このギャガヤという名前を、世界でいちばん静かで平和な町にふさわしい名前に変えよう。そして、やかましい町だった時にあった歌も作り変えて、自然の音を教えてくれた世界中の人たちに教えてお礼をしようっと。(中略)

とてもすてきで夢みたいなたん生日でした。この静かな空間をつくり出した人たちに会ってお礼が言いたいです。世界中の人たち、本当にありがとう。(R児)

「あとがき」

私がお送りした「世界でいちばんやかましい音」は楽しんでいただけましたか？ 作者は読み終えてから

「おもしろかった。」「予想外だ。」と思っていただけたら十分だと思います。

この物語には、私のたましいをそそぎこんだしかけをいくつか用意しました。一つ目は、題名です。……二つ目は、王子様のせいかくです。……三つ目は、おくさんのそんざいです。……(中略)以上が大きく分けたしかけです。

それでは、メッセージを。私は、今回の作品で、「静けさや安らぎをくれ！」とうったえかけています。(中略)だから、思い出してほしい。自然の音のすばらしさを。ぬけるような青空の広さを。きっとそれに気付けば、もっといろいろなことがわかります。

では、このへんで。またお会いしましょう。(T児)

子どもたちは、学習をとおして学んだことを再構成し、さまざまな視点から創造的に表現することができた。また、文章からは一人ひとりの個性が感じられ、物語のそれぞれの楽しみ方を共有することができた。

5. おわりに

今回の実践をとおして、文学的文章を創造的に読み取ろうとする姿が、子どもたちにある程度育ってきたことが感じられた。その一方で、第3次の物語全体を扱う場面では、お互いの思いを十分出し合いながら読みを深めることができなかった課題がある。

今後は、他者の言葉として、テキストとともに学習者同士のかかわり合いを、授業の中に効果的に生かすことのできる単元づくりを試みたい。

<引用文献>

- 1) 山元 隆春：「読者反応論からみた文学教育の課題」, 岡山高校国語 42, pp.18-22, 2006.
- 2) 前掲書 1).
- 3) 阿部 昇：「構成・構造, 工夫, 図表, 評価という特色」, 教育科学 国語教育 No.744, pp.24-27, 2012.
- 4) ベンジャミン=エルキン, 松岡 享子：『世界でいちばんやかましい音』, こぐま社.